



東濃地区の子育て・親育ち通信

「家庭教育なう」は、恵那県事務所のHPからご覧いただけます

家庭教育なう

No.6



2025年9月発行
恵那県事務所振興防災課 家庭教育担当 大島
〒509-7203 恵那市長島町正家後田 1067-71

TEL 0573-26-1111〈内線 208〉
FAX 0573-25-7129
MAIL oshima-akihiro@pref.gifu.lg.jp

事業所、会社・行政・家庭一体となった家庭教育支援の取組

中津川ライオンズクラブ第1471回例会にて

ワーク・ライフ・バランスセミナーの紹介

日時 令和7年7月16日（水）12:15～
ゲストスピーチ 嶋倉 伸蔵さん（中津川市生涯学習スポーツ課社会教育指導員）
参加者 中津川ライオンズクラブのみなさん 60名

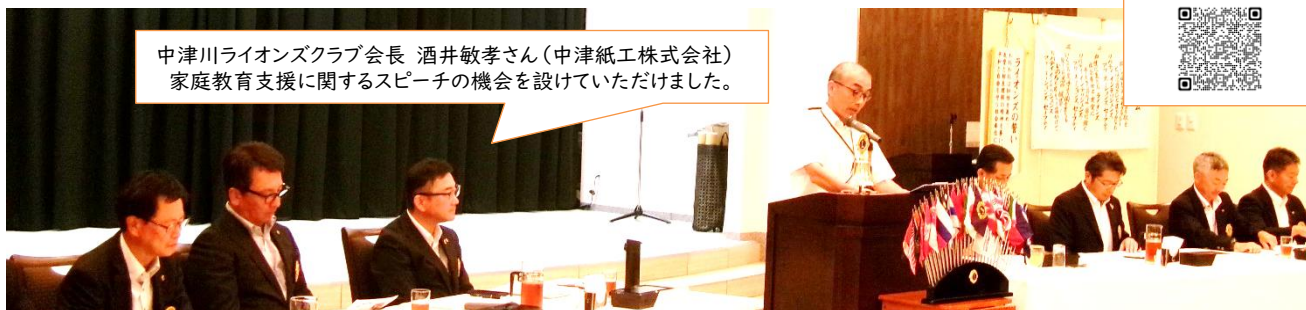
中津川ライオンズクラブ
1日
本日第1471回例会を行いました
ゲストスピーチ
中津川市生涯学習スポーツ課
嶋倉伸蔵様を迎え
「ワーク・ライフ・バランスセミナーについて」
と題して講演いただきました
会員の事業所等でのセミナーの
開催を助めていただきました

会社、事業所でも子育てについて学ぶ機会を！

SNSで紹介し
ていただきました



中津川ライオンズクラブ会長 酒井敏孝さん（中津紙工株式会社）
家庭教育支援に関するスピーチの機会を設けていただきました。



中津川市ではこれまで十数年にわたりワーク・ライフ・バランスセミナーを開催してきました。市内の企業、事業所のご協力を得て「会社、事業所で子育てについて学ぶ」機会を推進してみえます。7月には、中津川ライオンズクラブの例会において、「親の子育て、家庭教育の大切さ」についてPRする場がありましたので紹介します。

この事業は、岐阜県が推進している「企業内家庭教育研修」の取組ともリンクしています。昨年は、共栄液化ガス株式会社で「中津川市ワーク・ライフ・バランスセミナー」兼「企業内家庭教育研修」として実施していただけました。今回は、家庭教育支援の大切さを会社・事業所のリーダーの皆様にお伝えできる機会となりました。



【中津川市の取組を紹介する生涯学習スポーツ課家庭教育指導員小川さん】

中津川市が推進する

職場で学ぶ子育てミニ出前講座
「ワーク・ライフ・バランスセミナー」

行政としての家庭教育支援

企業・事業所と連携し、子育て中の親だけでなく、これから親になる若い従業員、子育てが一段落した従業員、管理職など幅広い層を対象に、家庭の教育力の向上と地域社会の子育ての推進を目的に従業員の皆様向けの研修として、このセミナーを提供しています。

【嶋倉さんのスピーチの内容】

- 1 岐阜県家庭教育支援条例
・子育ての責任は親にある
・親の子育てを祖父母、地域、学校や園、事業者、行政が支援
- 2 家庭教育の現状は…
△男性の子育て参加
△子育ての孤立
△共働き家庭の増加
△青少年の課題
- 3 ワーク・ライフ・バランスセミナーのススメ
・従業員の子育て学び
・企業としてのメリット

【中津川ライオンズクラブとは】

クラブのスローガンを「笑顔で奉仕！仲間を増やそう！We Serve（我々は奉仕する）」とされ、環境、文化、青少年育成、健康、福祉など、様々な分野で活動を行っています。

今回の例会では酒井会長より中津川市の中学生と懇談をする「中津川サミット」や、坂本駅前での交通安全運動の活動について等報告がありました。学校等で薬物乱用防止教室を行うなど、幅広く地域貢献奉仕活動を実施してみえます。

【ワーク・ライフ・バランスセミナー スピーチの反応】

スピーチの後、アンケートにご協力いただきました。その中で、「興味があり、開催を検討したい」との回答をいただいた事業所・会社がありました。今後連絡を取っていきます。

※地域の会社のリーダーである皆さんに「家庭教育」支援に関する連携の輪が広がることは、子育て家庭にとって、とても心強いです。㊦

みなさんの職場でも「子育て」について研修してみませんか。恵那県事務所にお電話ください。（0573-26-1111内線 208）

恵那市中央乳幼児学級（長島・大井・東野・三郷・武並地区）

7月 絵本を楽しむ

日 時 令和7年7月2日（水）10:00～11:00
講 師 足立 伊公子 さん（図書館サポーター恵那）
参加者 乳幼児とその保護者28組



絵本の読み聞かせを通して、育む「温かいつながり」



長島小学校6年生

本日の内容

- 1 出欠 大きな声でお返事を!
- 2 今月のお誕生日
- 3 長島小6年生 読み聞かせ
- 4 絵本のおはなし
足立伊公子さん
- 5 次回のお知らせ&アンケート

恵那市の乳幼児学級は、昨年度より市内を3地域に分けて実施しています。今回は、「絵本を楽しむ」恵那市中央乳幼児学級の取組を紹介します。

今回の内容は大きく2つ。一つは、恵那市立長島小学校6年生のみなさんの「絵本の読み聞かせ（手遊び歌）」です。児童は自分で好きな絵本を選び、しっかりと読み聞かせができるように練習してこの場に臨みました。また、グループごとに「手遊び歌」も披露するなど、乳幼児と保護者に楽しんでもらえるように練習を積んできました。



語りかける足立さん

この児童が絵本を選ぶアドバイスをされたのが、図書館サポーター恵那の足立さんです。事前に3歳までの乳幼児に読み聞かせるのよい本をリストアップして、長島小学校へ届けられました。6年生は、その中から、自分が読み聞かせしたい好きな絵本を選びました。

足立さんのお話の一部を紹介

- ☆好きな本を選んで、自分の好きな気持ちで読んでみましょう。
- ☆絵本は「読みたい」という人が読むのが一番、今日参加している6年生は、みんな「読み聞かせがしたい」と参加してくれていると担当の先生から、聞きました。とってもうれしいです。
- ☆お母さんたちどうでしたか。子どもたちが読み聞かせをするとき、本を読んでくれる人の顔を見ていました。とても大事なことですね。
- ☆読み聞かせを一生けん命している小学生の姿に感動しました。

参加された保護者の方の感想

- 「小学生のみんなと触れ合えた。とってもみんないい子達で、赤ちゃんの視点を考えてゆっくりはつきり読んでくれたり、本にはない問いかけを自分で考えてしてくれたりと思いやりがあって心温まりました。」
- 「足立先生もおっしゃってましたが、絵本を通して読んでくれる人との関係ができるということをまさに実感しました！（本日の後半でわが子が）絵本を読んでくださる職員（)の方に嬉しそうに何度も絵本を持って行って読んでもらっていました（笑）」



読み聞かせの場面



読み聞かせの場面

<恵那市立長島小学校 西尾校長先生にお話を伺いました>

本校の6年生が乳幼児学級で絵本の読み聞かせを行うようになって3年目となります。やはり、子どもは地域に出て行って、地域の方と触れ合うことで大きく成長します。学校で日頃から力を入れている「読書活動」を活かし、乳幼児・保護者と触れ合うことで、子どもたちの社会性も育まれます。今日も参加した6年生の表情がとても穏やかで柔らかくなり、有意義な活動であったと手応えを感じました。

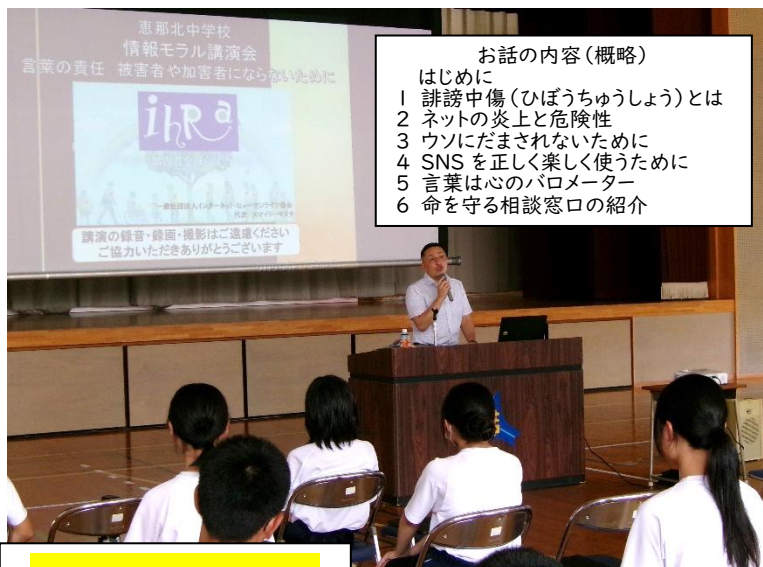


恵那市立恵那北中学校 家庭教育学級

情報モラル講演会(親子で参加)+懇談会(保護者が参加)

日 時 令和7年7月8日(火) 13:30~16:00
講 師 スマイリーキクチさん(一般社団法人インターネット・ヒューマンライツ)
参加者 全校生徒75名とその保護者

スマイリーキクチさんの壮絶な体験と生き様から学ぶ情報モラル



お話の内容(概略)

はじめに

- 1 誹謗中傷(ひぼうちゅうしょう)とは
- 2 ネットの炎上と危険性
- 3 ウソにだまされないために
- 4 SNSを正しく楽しく使うために
- 5 言葉は心のバロメーター
- 6 命を守る相談窓口の紹介

スマイリーキクチさんプロフィール

1999年、身に覚えのない事件の殺人犯だとネット上で書き込まれ、以降いわれなき誹謗中傷を受け続けた。

2011年に、その闘いの記録を綴った著書「突然僕は殺人犯にされたーネット中傷被害を受けた10年間」を発刊し話題に。

お笑い芸人としてテレビ・ラジオで活躍するかたわら、自身の経験を基に、ネット犯罪の恐怖や対策などについて、各地で講演活動をおこなっている。

「スマイリーキクチさんの話を中学生に聞かせたい。」

家庭教育の担当となった鈴木勝久教頭先生の思いからこの講演会は実現しました。

スマイリーキクチさんは、岐阜県にも縁があり、去年は恵那市で講演会も行われました。

☆ 心に残ったフレーズ ☆

「壮絶な誹謗中傷を受けたのですが、死にたいとは思いませんでしたか?」の問いに

「思いませんでした。私が死んだら、これまで私を誹謗中傷した人はどう思うでしょうか。それを考えると死ねませんでした。私が幸せに生きることが、誹謗中傷をしている人への答えと考えるようになりました。」

「逃げるのではなく、離れるのです。ストレスや嫌なことから逃げるのではなく、そこから離れることが大切です。私は自分の経験からそう

思います。スルーする力と言ってもよいかもしれません。」

「反論するのは、すべて敬語です。それも丁寧な言葉で行います。誹謗中傷する人には、攻撃的な人もいます。そんな人を相手にして、危険なことに巻き込まれてはなりません。」

「日頃から「死ね、消えろ、ウザイ」ばかり使っている人は要注意です。必ずそういった言葉で書き込みをします。保護者の方をお願いします。お子さんの普段からの言葉遣いに敏感になってください。」

「心にとめておきたい言葉」がたくさん聞けた興味深いお話でした。

【家庭教育学級としての工夫:参考になると思います(専)】



←大切な話は、親子一緒に聞きましょう。

恵那北中学校の情報モラル講演会は写真のように、親子が隣同士並んで話を聞いていました。ちょっとした工夫ですが、親子での会話がしやすくなります。



←講演会後の座談会がありました

スマイリーキクチさんと気軽な雰囲気でお話する機会がありました。質問や話の内容も多岐にわたり、保護者の方も講演会同様、引き込まれる時間となりました。

【生徒の感想】

今日はスマイリーキクチさんの実体験などをもとに、SNSの怖さを改めて感じました。「ネットは危ない」「使い方に気をつけよう」などたくさん聞いてきたけど、今回の講演を通してこの言葉がどれだけ大切か気付くことができました。言葉で誰かを傷つけてしまうこともあるかもしれないから、言葉を刃物に変えずにポジティブな言葉をかけたいです。また1日1日を大切に楽しく過ごします!

【保護者の感想・この後、ご家庭に戻って、どんな話をしようとお考えになりましたか。】

- ・スマホと正しく付き合うこと、自分でルールを決めさせることを、話し合います。
- ・家庭でも友達ともルールや約束を大切にするという約束をしようと思います。(しました)

また簡単に信用しない、警戒心を持つ、人の気持ちを大切にするなど、ネットで時間をかけて親しみを持たせて本性を現すなどもあるので気をつけて欲しい。



中津川市立付知保育園 講演会 給食見学参観(中津川市家庭教育支援連携事業)

「食べるチカラは生きるチカラ～楽しく育てるお口の習慣～」

日時 令和7年7月24日(木) 9:30～

講師 中村 ゆかり さん(やまうち小児歯科 歯科衛生士 上級食育指導士)

参加者 付知保育園保護者 約30名

「さっそく、家で子どもの口(動きや、中)を確認してみます!」



お話の概要
1 虫歯は減っている
2 虫歯予防だけじゃないお口の習慣
3 今日から始める健口(けんこう)習慣

中津川市は教育委員会主導で学力アッププログラムを推進しています。この付知保育園でも、岩佐園長先生を中心に『体も心も丈夫な子』の園目標のもと、【体】と【心】について方針を明確にして園児の健全育成に取り組んでみえます。今回の講演会、給食見学のご案内には次のようにありました。

「生きていく、成長していくうえで、大切なことは食べることです。おいしく食べる、楽しく食べるにはお口が健康でないと感じることはできません。懇談会などで、おうちの方からのお悩みで多かったのが、「食べることについて」でした。園でも、日々食べることにに対して、子どもたちの気になる姿が見られます。(中略)ぜひ、保護者の皆様にも中村先生のお話を聞いて、これからの子育てに活かしていただけたらと思います。」お話の一部を紹介します。

◇生活リズムを整えることで、虫歯が防げます。3回の食事におやつ1回までなら虫歯にならないという結果も出ています。それは、だらだら食べ続けることがなくなり、唾液の働きがしっかりと機能するためです。

◇仕上げ磨きは、「子どもを寝かせてしっかりホールド、安定した姿勢をとり痛くない工夫、長い時間は苦しい、仕上げ磨きのタイミング」などに気を付けると子どもも嫌がりません。

◇「お口の機能がしっかりしているか見るには、スプーンで食べ物を下唇のあたりにそっと置いてみればわかります。」とあって動画でわかりやすく教えていただきました。お口の機能がしっかり発達していないとスプーンの上の食べ物が食べられない子もいるそうです。(この動画は、日本顎咬合学会のHPでご覧になれます。)

◇何歳になっても自分の口から食べることがとっても重要、まさに「生きる力」です。そのためにも自分の体を自分で守る体操として、「あいうべ体操」(福岡県みらいクリニック 今井一彰院長考案)がとても効果的です。

中村先生はお話の中で「食べることは、楽しいこと」とおっしゃいます。園での給食だけでなく、家庭での食事が、親子にとって明るく、楽しく、子どもの将来を育むものであることを願っていることがよくわかりました。福岡県みやま市の小学校で、1年生の男子児童が給食で出たうずらの卵をのどに詰まらせ死亡した事故にもふれ、こうした悲しい事故を防ぐためにも、しっかりと「口」の機能を高めていくことが大事ですとお話してみえました。



聴講する保護者の皆さん

給食参観 保護者も真剣に中村先生のお話に耳を傾けます



◀給食参観での中村先生の指導は圧巻 パパもママも先生もためになります

今回、講演会の後、保護者は給食参観をしました。そこを中村先生が巡回します。各教室では、先ほど講演された内容をもとに具体的に食べ方の指導をされます。ある子は・・・「いつも食べるのが遅くなってしまいます。」とのこと・・・食べている様子を参観して、口いっぱいにはおぼる様子を見て取った先生は、「『かじりきり』をしてみましょう。」と子どもにとって適切な一口がわかる方法を試みます。すると、自然と自分のひと口に合う分量を口にでき、なんなく食べきりました。中村先生

の声かけ、働きかけで、うれしそうに食事をする園児の姿がありました。

<指導を参観して・・・>

「食べているときに口が開いてしまう子は、唾液が上手く混ざりません。それは姿勢の影響もあります。」と両足を床にしっかりとつけて、足首、ひざ、腰が自然に90度になるように整えてみえました。いわゆる「足ピタ」の姿勢です。小学校でも、この姿勢ができている子は、学習への集中が持続します。食も勉強も一緒だと思いました。(㊟)